

社会福祉法人 歩む会福祉会

2022年度 事業報告

2023年3月31日

1. 法人概要

(1) 各事業所の運営

【障害福祉サービス】

- ・あゆみ作業所（生活介護・日中一時支援）
所在地 深谷市柏合804-1

- ・ねぎぼうず作業所（生活介護）
所在地 深谷市榛沢新田6-1

- ・山ばと作業所（生活介護）
所在地 本庄市栗崎147-3

- ・スワン深谷（就労継続支援B型・日中一時支援）
所在地 深谷市宿根524-1

- ・歩む会美里ホーム（共同生活援助・短期入所）
所在地 美里ホーム 深谷市針ヶ谷1054-3
針ヶ谷ホーム 深谷市針ヶ谷767-2

【障害児通所支援】

- ・大きな樹（放課後等デイサービス）
所在地 本庄市栗崎660-1

【計画相談支援】

- ・あゆみ相談支援センター（特定相談支援）休止中
所在地 深谷市柏合804-1（あゆみ作業所内）

(2) 役員等の構成

評議員	理事	監事
7名	6名	2名

(3) 理事会・評議員会開催状況

理事会	第 128 回 2022 年 6 月 3 日	<ul style="list-style-type: none"> ・2021 年度事業報告及び決算の承認について ・就労支援事業積立金の積立て承認について ・運営規程の変更について ・慶弔費について ・評議員の招集の件
	第 129 回 2022 年 9 月 26 日	<ul style="list-style-type: none"> ・就業規則の変更について ・定年となった職員の雇用延長について ・慶弔費について
	第 130 回 2022 年 11 月 17 日	<ul style="list-style-type: none"> ・美里ホームの虐待と思しき案件について ・管理者の任免について
	第 131 回 2022 年 12 月 8 日	<ul style="list-style-type: none"> ・2022 年度第 1 次補正予算について ・就業規則の変更について ・美里ホームの虐待と思しき案件について ・管理者の任免について ・評議員会の招集について
	第 132 回 2022 年 12 月 26 日	<ul style="list-style-type: none"> ・歩む会美里ホームの虐待案件について
	第 133 回 2023 年 1 月 26 日	<ul style="list-style-type: none"> ・歩む会美里ホームの虐待案件について ・コンサルティングについて
	第 134 回 2023 年 3 月 20 日	<ul style="list-style-type: none"> ・2022 年度第 2 次補正予算の承認の件 ・2023 年度事業計画及び収支予算書の承認の件 ・経理規程の変更について ・定款施行細則の変更について ・大きな樹の定員変更及び運営規程の変更について ・歩む会美里ホーム虐待事案の件 ・歩む会美里ホーム管理者の変更の件 ・歩む会美里ホーム夜間就業体制について ・新人事制度構築コンサルティングについて ・定年となった職員の雇用延長について ・評議員会の招集の件
評議員会	第 69 回 2022 年 6 月 24 日	<ul style="list-style-type: none"> ・2021 年度事業報告及び決算の件について
	第 70 回 2022 年 12 月 20 日	<ul style="list-style-type: none"> ・2022 年度第 1 次補正予算の承認の件について
	第 71 回 2023 年 3 月 29 日	<ul style="list-style-type: none"> ・2022 年度第 2 次補正予算の承認の件について ・2023 年度事業計画及び収支予算書の承認の件について

(4) 職員配置状況・人事異動状況

2023年3月31日

		あゆみ作業所	ねぎぼうず作業所	山ばと作業所
職員数	常勤	10	3	5
	非常勤	15	7	5
採用者	常勤	0	0	0
	非常勤	3	1	1
退職者	常勤	0	0	0
	非常勤	3	2	0
		スワン深谷	歩む会美里ホーム	大きな樹
職員数	常勤	3	5	2
	非常勤	5	14	5
採用者	常勤	0	0	0
	非常勤	0	7	0
退職者	常勤	0	1	1
	非常勤	1	2	0

(5) 各事業所の利用者状況

2023年3月31日

	あゆみ作業所	ねぎぼうず 作業所	山ばと作業所	スワン深谷		
定員	35	20	20	20		
在籍者数	34	18	15	15		
年間延べ利用者数	7522	4458	3482	3376		
入所者	0	0	1	3		
退所者	1	0	0	1		
		歩む会美里ホーム			大きな樹	あゆみ 相談支援センター
		美里	針ヶ谷	短期入所		
定員	9	9	3	15	休止中	
在籍者数	9	9	-	13	-	
年間延べ利用者数	2788	2993	9	2492	-	
入所者	0	0	-	1	-	
退所者	0	0	-	0	-	

2. 今年度の特徴

9月に美里ホーム職員による不適切な支援と思われる案件が発生し、この案件について当福祉会の虐待防止委員会を中心に事実確認や問題点、課題の検証と改善策の検討を行った。

検証結果については、複数の虐待が確認されたため、虐待事例検証結果報告を作成し、埼玉県や深谷市・上里町に虐待と思われる事案として検証結果を提出する。また当該事業所の管理者からも埼玉県や深谷市に報告する。

その後深谷市からの立ち入り調査が実施され、検証結果から虐待と確認され認定を受ける。虐待を受けた仲間や家族に理事長始め管理者、当該職員から謝罪を行い、家族からは率直な意見を頂き、仲間や家族の思いに改めて真摯に向き合う場となる。その後関係者全員に検証結果報告書の配布を行う。

さらに深谷市からの指導を基に、再発防止に向けた取り組みでは、虐待事案の経緯と虐待事案の起きた要因と背景を確認し共有する。

業務改善計画の作成に向けた取り組みでは、原因の究明や虐待発生後どのような研修、指導を行ったのかを明確にしながらいずれも代表者会議等で協議を進め、進捗状況を理事会に報告を行う。

家族説明会でも、仲間に対する家族の思いを受け止めきれず、仲間の生活を守るための支援という考え方が至らなかったことに対して、厳しいご意見を頂く。同席で再発防止策についても、今後歩む会全体で、改善に取り組んで行く事の説明を行う。当該職員は懲戒解雇処分、管理者は減給処分となる。

この度の虐待について歩む会福祉会として重大事案と重く受け止めるとともに、法人理念や基本的姿勢を根幹から裏切る行為だったこと。管理体制の不備であったこと等、様々な虐待要因が確認されました。仲間の皆さんやご家族の安心と信頼を裏切る結果となってしまったことについて反省し、今回の事案を教訓として今後も当該事業所については、業務改善と進捗情報の発信に努めるとともに、法人全体では、管理者を始め全職員の意識向上と虐待防止に一丸となって取り組む事を確認する。

また新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度も様々な行動制限がかかった。各事業所でも感染者が多発する。7月から8月にかけては、スワン深谷、山ばと作業所が数日間の事業所の閉所対応を取る。また8月の下旬から9月の中旬にかけあゆみ作業所給食調理員が感染したことを受け、給食提供中止対応を取る。12月にはねぎぼうず作業所でクラスターが発生し、事業所の閉所対応を取る。1月の下旬にはあゆみ作業所が数日間の事業所の閉所対応を取る。閉所した事業所では、在宅支援に切り替えて支援が行われた。美里ホームでは、感染した職員が亡くなった。(死亡とコロナの関係を調査中で労災認定はまだ出ていない)等、様々なことが起こった1年であった。

仲間達が例年参加していた行事は開催されなかった。しかし、各事業所ではお楽しみ会やローソンの移動販売を招いたりし、仲間が楽しむ機会を持つことができた。

あゆみ相談支援センターは、今年度から休止となった。

3. 今年度の主な施策

(1) 経営組織力の強化

理事会はこまめに開き、虐待案件について丁寧に協議してきた。評議員会は予定されていた日程を開催してきた。

重点課題としていた新規利用者が、5名入所した。その内、大きな樹の卒業生2名が入

所した。山ばと作業所が大きな樹の側に移転したことで、大きな樹の家族も作業所の様子を身近に感じることができ、より大きな樹との連携が進められ、実を結ぶ事ができた。

中期経営計画の検討をし策定できるように、今年度は準備の年と位置付けてきたが、具体的に協議を進めていくことができなかった。

(2) 基本理念と基本的姿勢

新人研修で周知し、内部研修時に理解度等の点検を取り組んできたが、虐待案件を通じて歩む会の基本理念や倫理綱領を、全体で改めて学んでいく姿勢が求められた1年でもあった。

(3) 人事管理

キャリアパスを基にした評価制度等の導入は、2023年度から準備を始める事とした。計画的な人材確保ではリクナビを活用し、webでの説明内容を改良し、説明会を行うなどしてきた。応募は数件あったが、採用には至らなかった。

今年度は山ばと作業所とスワン深谷で人事異動を行った。

職員研修では、新人研修や内部研修を4グループに構成して進めてきた。中堅職員の育成に繋がる研修やリスクマネジメントについてや重度者支援についての研修を取り組んできた。

労務管理のシステム化の導入は、協議を進められず取り組めなかった。ハラスメント防止対策強化では、基本方針の作成を完成することができた。

(4) 支援

4月に虐待防止委員会の運用がスタートし、委員会を開催し全職員に対してセルフチェックを取り組み、事業所毎に集計したものをサビ管会議でまとめ、現状と傾向の把握を行ってきた。結果から支援や虐待に関して悩みを抱えている職員がいるという点は確認できたが、実際に検証を行う事ができず、虐待の兆候を見逃してしまう等不十分な結果となり、次年度に向けて実用性のある検証方法や様式の検討を行っていく。

仲間の高齢化、障害の重度化では、専門家の方から教えて頂いた運動を基に朝の会后や日中の作業の合間に取り入れ、体力維持に繋がるよう支援を行ってきた。

障害の複雑化への対応支援では、援助技術関係の研修の機会がなく、次年度は専門性の向上目指しての実践が進められるように研究していく。

個別支援計画では、仲間のニーズに沿った支援の提供となるよう計画作成を行ってきた。

仲間の自治会では、役員を中心に担当職員と共に、誕生会やお楽しみ会、行事など趣向を活かして取り組んでいる。

外出がなかなかできない状況下、ローソンの移動販売を利用し、毎月定期的に買物経験を重ねてきた。

運営委員会の開催は、コロナ感染予防の観点から、実施することを控えた事業所が多かった。一部の事業所では、感染者数が減少している時期に開催し、仲間の将来の事や家族の健康問題についての声が寄せられていた。

給食を提供している事業所では、献立に新メニューが登場し、季節を感じられるメニューも用意された。嚥下機能が低下している仲間へは、野菜の切り方を工夫したり、食器やスプーンを小さいサイズに変える等の取り組みをし、その人にあった食べやすさを考えながら提供した。

相談支援事業所から、情報提供やアドバイスを頂きながら支援を行ってきた。

(5) 虐待防止等に係る取組み

年度末の職員研修時に、埼玉県指定の虐待防止に係る動画を視聴し、事業所毎ではあったが、ディスカッションを実施し学びを深める機会を設けた。

(6) 身体的拘束等の適正化に係る取組み

身体的拘束等適正化委員会の運用が2022年4月からスタートした。

身体拘束の具体例（3ロック）について、またやむを得ず身体拘束を行う際の要件と手続きについて職員に周知を行った。

研修動画や県虐待防止権利擁護研修動画を使用し、身体拘束適正化に関する研修を行った。

(7) 感染症の発生及びまん延の防止等に関する取り組みの義務化

感染対策のための委員会の設置や指針の整備について、今年度から協議を行い、次年度には完成できるよう努めてきた。

(8) 業務継続に向けた計画等の策定や研修・訓練等の実施の義務化

自然災害と感染症に係る業務継続計画を作成するために、分掌で協議を行い、次年度に完成できるよう努めてきた。

(9) 施設・設備の改善について

あゆみ作業所の、班の活動場所の整備や職員用の駐車場の整備について、理事会で議題に上ったが、美里ホームの虐待案件についての協議が優先になり、具体的には進めなかった。備品整備として、あゆみ作業所の電話機の入れ替えや給食用食洗器の入れ替え、スワン深谷の電話機の入れ替え、工房の印刷機をリース対応で入れ替えを行う。大きな樹のバス車両を、リース対応の車両に入れ替えを行う。

各事業所の事業報告

(1) あゆみ作業所

年間の新型コロナウイルス感染者は仲間と職員とを合わせて22名（うち、事業所内感染6名）で、在籍者3人に1人程が感染したことになる。家族を感染源とした家庭内感染が特徴的だったが、事業所内での伝播感染により、1月から2月にかけて仲間3名と職員3名のクラスター感染が発生し、開所予定日のうち5日間を閉所した。その間の仲間の支援は在宅支援に切り替え、基本報酬を算定することができた。また、複数の給食調理員が同時に感染したり濃厚接触者となったりした際には、体制が整うまで給食の提供を9回中止し、その間の昼食は外部の弁当に依存することとなった。

今年度は4月に1名の退所者があり、在籍者は定員35名のところ34名を維持した。前年度の延べ利用者数が7953人に対して今年度は7522人で、定員に対する利用率は4.6ポイント減の79.9%だった。一方で、自立支援給付費は前年度比で462,422円の増収となり、利用者単価が増となっていることがうかがわれる。主な理由としては、障害支援区分の変更により報酬単価が増額した利用者がいたこと、10月から新たに創設されたベースアップ等支援加算を取得したこと、1月から3月にかけて、3名について重度障害者支援加算が取得されたこと、などが考えられる。

しかし、在籍者34名のうち6名が週に3日以下の出席であることに加え、土曜日の欠席者が前年度より増えて、利用率が6割程度だったことなどから、延べ利用者数を増やすことは継続した課題である。

特別支援学校在学生のうち卒業後にあゆみ作業所の利用を希望している方は複数あり、次年度の新規利用者は1名で、実習から繋ぐことができた。

支援では、達成感や満足感が得られることを意識して活動に取り組むも、ニーズの掘り起こしが不十分だったため課題となった。また、仲間の意思決定を支援するにあたり不適切な判断があったため、それを反省して基本原則を学ぶ機会を設け、仲間が言ったからといって支援者がそれに簡単に同意して良いものではなく、幅広い選択肢を提供したり、真のニーズを把握したり、上手く意思決定ができない際の対策を講じたりといったことに配慮が必要であることを学んだ。

外出や買い物の機会が少なくなった仲間たちが、自分で好きな物を選んで買い物をするといった目的で実施しているローソン移動販売での買い物は、今年度も継続し、月1回の楽しみとなっている。

生産活動では、障害の重度化や複雑化などの課題に向き合いながらも、収益は前年度比で増となり、仲間への工賃還元も前年度より増やすことができた。

外部研修はオンラインで行われ、積極的に参加したものの、専門性についての定着は難しく、研修を実践に応用しそれをどのように評価するのかが専門性向上に向けての課題となった。

事故防止については、ヒヤリ・ハットに気づく力は弱く、支援の視点が未然に事故を防ごうとする安全意識に寄ってしまい、仲間の行動を制限することで事故を防ごうとする傾向がみられた。気づく力をどうすれば向上させられるかは引き続き課題である。また、過去に起こった事故と同様のことが起こり、過去の教訓や再発防止が生かされていないこともあった。

仲間の自治活動は、仲間を中心に据えた活動は定着してきたが、PDC Aサイクルに沿った、仲間が達成感を得られるような取り組みには至らなかった。

仲間の表現活動では、個人別ではあるが、きょうされんグッズデザインコンクールに入賞した仲間が、全国大会の表彰式で陸前高田市を訪れた際には、東日本大地震のことや津波のこと、コロナの影響のことなど、これまで口にする事のなかったことを気に留めるようになった。被災地を訪れ表彰式に参加できたことは、当該仲間にとっては素晴らしい経験となり、アートへの意欲がさらに向上した。このことは周囲の仲間たちにも影響を及ぼし、ますますアート作品作りへの意欲が向上してきた。

(2) ねぎぼうず作業所

8月、新型コロナウイルス感染に、2名が感染するが夏季休暇中や休日中だったため、感染の広がりはなかった。その後12月の後半に職員の感染が確認され、3日後から仲間や職員の感染が相次ぎクラスターになってしまう。2日間閉所し、年末は仲間や家族の健康状況を確認してきた。家族内での感染も確認され、一時はどうなることかと不安だったが、年度初めの1月5日には落ち着き、通常の事業運営となる。仲間達への手洗い、手指の消毒、マスクの着用をお願い、給食前後のテーブル類の消毒や館内消毒を毎日取り組んでいたが、感染が広がってしまい、今後の防止策について職員で話し合う。対策として座席の間隔を空けて乗車するように共有した。

今年度の在籍者は定員20名に対し在籍は18名。定員に対する利用率は82.8%（前年度比3.7ポイント減）となった。1名の利用者は現在他施設を利用しているため、作

業所の利用はないが、家族からの希望で在籍継続している。また1名の利用者はコロナ感染防止のため在宅支援を継続している。まだ定員に空きがあるので、引き続き実習等を受け入れ利用者増に繋がれるように取り組みたい。

支援計画の面談はコロナの影響が続き、仲間への説明のみで取り組み、家族が作業所へ足を運ぶ機会がつかれなかった。家族との繋がりを持つことができる運営委員会は、不定期の開催になる。7月のお楽しみ会や忘年会はコロナの感染の波が押し寄せ実施することができなかった。

今年度は、はばたき特別支援学校や本庄特別支援学校が主催する作業所説明会に参加する。入所者を迎える事には結びつかなかったが、作業所を知ってもらえる良い機会と捉え、来年度も継続して参加できるように進めていきたい。

ヒヤリハット報告書を退勤前のまとめの時や職員会議等で、活用してきたことで、職員間で共有でき、大きな事故には繋がらなかった。

ボランティアの受け入れは感染予防を実施し、絵画や音楽、編み物でお世話になることができた。仲間達も笑顔が多くなり、充実した一時を過ごすことができています。

外出もままならない中、ローソンの外販車を利用して軽食やお菓子類・飲み物を購入する機会を持つことができた。仲間の中にはコンビニを利用する機会が全くなく、初めての経験となる仲間達もいて世界観が広がる良い場となっている。

仲間の会では、役員会を定期的に開催し誕生会の進行の確認や会費の集金チェック等を行ったり、誕生会のプレゼント購入に出かける等取り組んできた。言葉を発せられない仲間も、回を重ねる中で役員としての自覚がでて、責任感ある行動が見ることができた。

給食については、今年度から魚の食材を骨なしに変える。それまでは提供前に予め魚の骨を除いてくれてはいたが、小骨などの心配があり魚料理の時は残量が多かったが、食材をかえたことにより残量が劇的に少なくなってきた。ご飯茶碗も数名ではあるが、仲間にあった大きさに変えたことで、見た目にも満腹感を実感できるようになってきた。スプーンの大きさを昨年より小さくしたが、今年は数名の仲間にもさらに一回り小さいものを用意した所、食べやすい環境が整った。ご近所や農家の方に頂いた野菜を献立に盛り込みながら、工夫を凝らしてくれ、楽しみな給食となっている。

(3) 山ばと作業所

8月に職員1名、仲間3名が新型コロナウイルスに感染したため、事業所を3日間閉所した。その間、在宅支援に切り替え仲間の支援を行った。

4月に新たに入所者1名を迎えた。大きな樹の卒業生だったため、大きな樹と情報交換を行いながら支援を行うことができた。1名増え、在籍者は定員20名のところ15名となった。前年度は延べ利用者数が3384人で定員に対する利用率は62.8%だった。今年度は、延べ利用者数が3482人で定員に対する利用率は64.7%で1.9ポイント増となった。在籍数に対する利用率は前年度は90.4%、今年度は80.9%で前年度に対し9.5ポイント減となっている。利用が困難な仲間1名に対し負担でない範囲での声掛けを行うなど支援を模索している。

新たな利用者の開拓につなげるべく6月、10月、1月に本庄特別支援学校の実習生を受け入れた。10月には実習先を検討していた高等部1年生と保護者が見学に来られ、1月の実習につながった。12月に高等部1年生が職場見学で作業所に来所、また本庄特別支援学校で行われた作業所フェアに職員が参加して保護者への説明を行った。来年度は新たに本庄特別支援学校の卒業生1名が入所予定になっている。

生産活動では、昨年度より収入が減少し、それに伴い仲間の工賃も減少してしまう結果

になった。収入増を目指し考えていかなければならない。

新型コロナウイルス感染症により、活動が制限される中、マリーゴールドの丘や、小山川の川沿いの散歩等を行ってきた。10月には、総合公園でお弁当を食べ、公園を散策し楽しんだ。ローソンの移動販売で自分の選んだものを買ってお楽しみをすることができた。10月に行われた「本庄ふれあい祭り」には作品展のみの参加とし、当日、作品展の会場のシルクドームへ皆で出かけた。そこで他事業所の仲間に関わり、おしゃべりができ、新鮮で楽しい時間が過ごせたようだ。この2年半の間、外部の人と会っていなかったことを改めて感じ、人と関わることの大切さを実感させられた。

電害の為、窓ガラス1枚と室外機カバー複数個を修理した。

ヒヤリハット報告、事故報告、苦情報告を職員会議の議題にあげて、情報を共有し常に事故防止の意識を持つようにした。大きな事故はなかった。

仲間のニーズをとらえ、支援計画に沿った支援を行ってきた。日々、仲間の発信する言葉や表情、行動に寄り添い、仲間の気持ちをできるだけ受け止めながら支援を行ってきた。仲間からも、行事をしたい等の要求が出て、それを仲間の会で話し合い要求を実現させてきた。

仲間の支援に追われ、発達や障害特性等を学ぶ機会を持てなかった。計画的に学習を進めていくことが必要になっている。

給食は、仲間の体調等を考え、必要に応じ量や食材の大きさなどを調理員と相談し、仲間に合ったものに変更している。また、仲間から直接調理員に量や食材の大きさについての要望が出ることもあった。

(4) スワン深谷

新型コロナウイルス感染により、7月に事業所を3日間休所する。今年度は、4件の感染事例が報告されたが、一人ひとりの予防への意識と仲間の家族、多くの方々の支援もあり事業活動を継続することができた。

利用者増の取り組みについては、支援学校の説明会や、大きな樹との交流を通しての連携、各機関への情報発信等、積極的に取り組んだことにより、3名の仲間を新たに迎えることができ利用者増につなげることができた(ベーカリー班2名、工房班1名)。

事業所(利用状況)については、在籍数15名に対して79.6%で前年より6.6ポイント減となるが、利用者増により自立支援給付費は前年より増収となった。引き続き、定員を満たしていない状況なので、利用者増につなげられるよう継続し取り組んでいく。退所者については、8月に企業就労のために1名退所となった。

家族の協力を得られていたフォロー体制(協力体制)が、高齢化や生活環境の変化から継続できないケースが徐々に増えてきおり、柔軟な対応やニーズ集約が課題となった。運営委員会については今年度も新型コロナウイルス感染症の予防対策として中止した。

就労支援では、事業所と専門機関(就労支援センター)との連携を強化したことにより、仲間の意識付け(モチベーション向上)だけではなく支援方法を具体化したことで、仲間1名を企業就労にも繋げることができた。今後も仲間のニーズに応えながら就労事業所としての役割に努めていく。

生産活動では、原材料の高騰や昨今の材料不足の影響もある中、仲間の工賃を減額することなく支給することができた。活動収支は前年より210万増収となった。活動(ベーカリー)では自粛していたイベントや行事も徐々に再開したこと販売する機会が増えたことや、新規の外販先の開拓、法人内で行っている新商品販売など作業量も増えたことで売り上げ増に繋がった。工房班では、新しい印刷機を導入した。

仲間の自治活動では、仲間の提案や要求を大事にしながら、仲間の会役員が中心に活動が進められるよう内容が深め、取り組む工夫をすることで進行をする力を養うだけではなく、仲間主導になるよう職員間も連携し、支援を行った。

(5) 歩む会美里ホーム

理念や倫理綱領、職員行動規範における意識の欠如が主な原因として、9月に職員による利用者への虐待事案が発生する。事案発生後は被害にあわれたご利用者・ご家族に謝罪し、家族会にて「経緯と再発防止に向けた取り組みについて」の報告を行った。(3月30日に深谷市に業務改善計画書を提出)

再発防止の取り組みについては、業務改善を実行してきた。当初は、これまでの「安全を過度に意識した管理・監視的な支援」から、「より権利擁護を意識した利用者主体の支援」の変更に戸惑う職員も多く、改善が思うように進まなかった。しかしながら話し合いの時間をかけることで、一人ひとりの生活を大事にする支援へと着実に変化してきた。ただ、どの段階で完了というわけではなく、継続して取り組まなければならない課題である。

コロナの蔓延については、年末にかけて流行し多くの利用者・職員が感染する事態となる。そのため計画していた交流会(クリスマス会、年越しの食事会)などのイベントを実施することができなかった。

短期入所の受け入れは、昨年同様、限定的な形で留まってしまった。原因は虐待事案の発生やコロナの流行があげられる。今後は美里ホームの全日開所に目途が立ち次第、順次受け入れを開始したい。

通院を支援する計画は、看護師の配置時間を増やすことで取り組むことができた。通院や入院のニーズに対応できたことは利用者の生活を支える大きな力となった。

虐待事案発生後は、現在もホームは正常な状態に戻っていない。美里ホームの開所は平日のみとなっている。宿直職員の確保ができていないことが原因にあげられる。引き続き、求人募集を積極的に行い、研修などを行っていく。

今年度の利用率は、共同生活援助 87.7% (昨年度 89.4%)、短期入所 0.03% (昨年度 0.03%) となった。共同生活援助については昨年度に比べて利用率が低下。また、短期入所については昨年度同様であった。これらの要因は上述した通りである。

(6) 大きな樹

今年度は新型コロナウイルス流行を理由に利用のキャンセルが相次ぎ、4月当初の利用待機児童が0人となってしまった。新規利用児童確保に向け、広告チラシのポスティング、大きな樹の SNS (インスタグラム) を開設する等、広報の強化を行った。年度途中ではあったが利用希望の問い合わせがあり、7月から利用者1名増となった。在籍者は定員15名に対し13名。定員(15名)に対する利用率は63.1%となった。他事業所との併用もあり、児童一人あたりの月平均利用回数も減少した。現状の利用実態に合わせた定員変更(中規模から小規模)を次年度以降すすめていけるよう準備した。

人材確保に向け、ハローワーク、Air ワーク (ホームページ掲載)、求人サイト (タウンワーク、おしごと net、介護ジョブ等) に情報を掲載し、求人者を募ったが採用には至らなかった。有資格者の配置要件や、勤務時間や給与等の見直しが今後の課題となった。

アルコール消毒やマスク等、引き続き新型コロナウイルス感染症対策を講じながら活動を行ってきた。家庭や学校での感染報告はあったが、大きな樹事業所内での感染拡大はなく、普段通り開所することができた。感染不安で欠席した児童に対しては電話等による在宅支援を行った。

活動は主に屋外を中心に散歩や公園遊具、山河での自然観察、プールや水遊び、駄菓子屋やローソン移動販売車でのお買い物レクやバーベキューイベントなど、児童が楽しめる活動を意識し計画してきた。今年度も旅行は計画できなかったが、代替え行事として地域の飲食店さんにご協力いただき、店を貸し切り状態にしてカフェ体験やお買い物を楽しむ等、社会体験行事を実施することができた。

常勤職員の勤務態度が悪く、再三の注意を行うも改善がみられなかったため、就業規則に従い出勤停止処分となった。

夏期休業中に行っていた特別支援学校の空調工事期間が延長し2学期に食い込む形となり、9月の短縮下校期間が2週間延長された。職員の出勤時間を通常より早めのシフトに組み直し対応した。

園庭は瓦礫やゴミなどの危険物の除去を行い、児童が安全に遊べる広いスペースを確保した。庭の一部に児童と一緒に花壇を作り、植栽や水やり、花の世話など新たな活動も増やすことができた。休憩の場として庭にベンチやブランコを設け、暑さ対策でミストシャワー等の設置も行った。リース契約しマイクロバスを新調した。今夏は40℃近い猛暑日もあったが、新しいバスはエアコンの効きもよく、夏期休業中の屋外での活動の際に大いに活躍した。雹害によりエアコン室外機や雨どいが一部破損したため修理した。

5.年間行事

4月	合同入所式【中止】⇒事業所毎に開催
5月	あゆみ作業所祭り【中止】
6月	スワン周年祭【中止】
8月	大きな樹旅行【中止】
9月	日帰り旅行【中止】
9月	日帰り旅行【中止】
10月15日	秋のフリーマーケット【中止】
11月5日	福祉の店【中止】
12月15日～17日	深谷ミニクッキーバザール
3月4日	ねぎぼうず祭り【中止】